

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年2月13日

【四半期会計期間】 第93期第3四半期(自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)

【会社名】 Mipox株式会社

【英訳名】 Mipox Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 渡 邊 淳

【本店の所在の場所】 山梨県北杜市大泉町西井出8566
(同所は登記上の本店所在地であり、主たる本社業務は「最寄りの連絡場所」
で行っております。)

【電話番号】 該当事項はありません。

【事務連絡者氏名】 該当事項はありません。

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区麹町5丁目3番23号 日テレ四谷ビル10階

【電話番号】 03(6911)2300(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員 上 谷 宗 久

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第92期 第 3 四半期 連結累計期間	第93期 第 3 四半期 連結累計期間	第92期
会計期間		自 2021年 4 月 1 日 至 2021年12月31日	自 2022年 4 月 1 日 至 2022年12月31日	自 2021年 4 月 1 日 至 2022年 3 月31日
売上高	(千円)	7,862,023	7,753,207	10,449,497
経常利益	(千円)	1,362,038	488,273	1,613,270
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	1,101,470	186,034	1,550,246
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	1,151,148	241,480	1,691,237
純資産額	(千円)	6,437,069	8,118,817	8,091,287
総資産額	(千円)	13,354,791	15,872,647	14,606,606
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	91.99	13.06	124.89
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	91.89		124.68
自己資本比率	(%)	48.1	51.1	55.4

回次		第92期 第 3 四半期 連結会計期間	第93期 第 3 四半期 連結会計期間
会計期間		自 2021年10月 1 日 至 2021年12月31日	自 2022年10月 1 日 至 2022年12月31日
1株当たり四半期純利益 又は1株当たり四半期純損失()	(円)	37.00	28.30

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 第93期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(製品事業)

第1四半期連結会計期間において、ミスミ化学株式会社の全株式を取得し、同社を子会社化しておりますが、現時点では重要性が乏しいため、非連結子会社としております。

その結果、当社グループは、当社、連結子会社7社及び非連結子会社1社によって構成されております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大による事業への影響については、今後の推移状況を注視してまいります。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され景気は緩やかに持ち直しているものの、ウクライナ情勢の長期化による資源価格の上昇や欧米との金融政策の相違による為替変動に伴う物価変動がみられる等、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような中、当社グループは、経営基本方針である「エンジニアリングアプローチによる製品事業の付加価値向上」「受託事業からエンジニアリングサービス事業への転換」「早い変化と多様性に対応できる経営基盤の整備」のもと、当社グループの強みであり基盤である「塗る・切る・磨く」の技術で、お客様の成功のための付加価値を目指す様々な取り組みを進めてまいりました。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高は77億53百万円(前年同期比1.4%減)、営業利益は2億49百万円(前年同期比81.6%減)、経常利益は4億88百万円(前年同期比64.2%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億86百万円(前年同期比83.1%減)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

・製品事業

製品事業の売上高は60億81百万円(前年同期比6.7%増)、セグメント利益は6億1百万円(前年同期比24.0%減)となりました。自動車や鉄鋼関連向けの一般研磨製品の売上が安定的に推移した一方、世界的なデータセンターへの投資抑制や電子デバイス関連市場の低迷により、ハードディスクや光ファイバー関連製品の売上が減少し、増収減益となりました。

・受託事業

受託事業の売上高は16億72百万円(前年同期比22.6%減)、セグメント損失は3億51百万円(前年同期は5億64百万円のセグメント利益)となりました。受注元の在庫調整や生産変更などによる受注減の影響を受け売上が減少し、事業所維持費を中心とした固定費等が増加したことにより減収減益となりました。

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ12億66百万円増加の158億72百万円となりました。主な内容は、現金及び預金の増加3億24百万円、仕掛品の増加2億71百万円、その他流動資産の増加5億99百万円、有形固定資産の増加32億9百万円、売掛金の減少3億18百万円、前払金の減少27億55百万円、繰延税金資産の減少1億94百万円等であります。

負債は、前連結会計年度末に比べ12億38百万円増加の77億53百万円となりました。主な内容は、短期借入金の増加10億69百万円、未払金の増加2億36百万円、長期借入金の増加8億56百万円、支払手形及び買掛金の減少1億4百万円、未払法人税等の減少2億75百万円、前受金の減少2億円、賞与引当金の減少1億29百万円、リース債務の減少1億94百万円等であります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ27百万円増加の81億18百万円となりました。主な内容は、親会社株主に帰属する四半期純利益1億86百万円、為替換算調整勘定の増加55百万円、配当金の支払による利益剰余金の減少2億13百万円等であります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は、51.1%となりました。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1億3百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間における重要な設備の新設は次のとおりであります。

資産の名称	所在地	資産の概要	取得価額
土地、建物、設備	栃木県鹿沼市さつき町	工場	2,548百万円

取得価額につきましては、取得諸経費、固定資産税、都市計画税、消費税及び地方消費税を含んでおりません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	42,780,000
計	42,780,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2023年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	14,451,920	14,451,920	東京証券取引所 スタンダード市場	(注) 1、2
計	14,519,200	14,451,920		

(注) 1 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。
2 単元株式数は100株であります。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2022年10月1日～ 2022年12月31日		14,451,920		3,379,569		1,880,544

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2022年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 189,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,234,200	142,342	
単元未満株式	普通株式 28,420		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	14,451,920		
総株主の議決権		142,342	

- (注) 1. 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2022年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。
2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式30株が含まれております。
3. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が900株(議決権の数9個)含まれております。

【自己株式等】

2022年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) Mipox株式会社	山梨県北杜市大泉町西井出8566	189,300	-	189,300	1.31
計		189,300	-	189,300	1.31

- (注) 上記のほか、株主名簿上は株式会社日本カストディ銀行(信託E口)名義となっておりますが、実質的には当社が保有している株式が23,300株(議決権の数233個)あります。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2022年10月1日から2022年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、興亜監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,394,382	2,718,889
受取手形	309,907	327,012
売掛金	1,789,097	1,470,304
電子記録債権	216,222	290,869
商品及び製品	789,147	740,170
仕掛品	1,365,509	1,636,652
原材料及び貯蔵品	582,096	678,314
前払金	2,755,980	
その他	412,225	1,011,817
貸倒引当金	2,943	2,864
流動資産合計	10,611,626	8,871,165
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	4,899,229	6,972,364
機械装置及び運搬具	3,232,820	3,307,350
工具、器具及び備品	378,283	435,898
土地	859,156	2,019,286
リース資産	835,496	770,211
建設仮勘定	391,626	369,148
減価償却累計額	7,246,189	7,314,670
有形固定資産合計	3,350,423	6,559,589
無形固定資産		
のれん	80,978	67,481
ソフトウェア	9,755	2,900
電話加入権	377	377
無形固定資産合計	91,111	70,760
投資その他の資産		
投資有価証券	55,000	55,000
関係会社株式		38,102
退職給付に係る資産	224,480	183,370
繰延税金資産	201,601	7,344
その他	72,363	87,315
投資その他の資産合計	553,445	371,132
固定資産合計	3,994,979	7,001,482
資産合計	14,606,606	15,872,647

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	756,521	651,889
短期借入金	400,000	1,469,000
1年内償還予定の社債	100,000	27,500
1年内返済予定の長期借入金	1,005,392	1,072,759
リース債務	88,588	62,262
未払金	418,090	654,723
未払法人税等	308,831	33,735
前受金	237,350	36,382
賞与引当金	237,754	108,138
関係会社整理損失引当金	92,109	46,655
その他	357,938	412,060
流動負債合計	4,002,578	4,575,108
固定負債		
社債	42,500	15,000
長期借入金	2,173,056	3,029,381
リース債務	280,828	112,399
繰延税金負債	919	12,249
その他	15,436	9,691
固定負債合計	2,512,740	3,178,722
負債合計	6,515,318	7,753,830
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,379,569	3,379,569
資本剰余金	2,925,782	2,925,782
利益剰余金	1,705,371	1,677,466
自己株式	104,219	104,230
株主資本合計	7,906,504	7,878,588
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	184,783	240,229
その他の包括利益累計額合計	184,783	240,229
純資産合計	8,091,287	8,118,817
負債純資産合計	14,606,606	15,872,647

(2) 【四半期連結損益及び包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	7,862,023	7,753,207
売上原価	4,283,860	5,001,187
売上総利益	3,578,162	2,752,019
販売費及び一般管理費	2,223,039	2,502,099
営業利益	1,355,123	249,920
営業外収益		
受取利息	3,761	4,730
受取配当金	360	360
受取賃貸料		124,118
為替差益	48,826	208,510
雑収入	6,981	19,298
営業外収益合計	59,929	357,017
営業外費用		
支払利息	38,511	53,843
支払手数料	13,142	24,839
賃貸費用		38,660
支払保証料	956	427
その他	402	893
営業外費用合計	53,014	118,664
経常利益	1,362,038	488,273
特別利益		
固定資産売却益		3,891
特別利益合計		3,891
特別損失		
固定資産売却損	136	30,133
固定資産除却損	19,739	4,792
特別損失合計	19,875	34,925
税金等調整前四半期純利益	1,342,163	457,238
法人税、住民税及び事業税	220,046	65,357
法人税等調整額	20,645	205,846
法人税等合計	240,692	271,203
四半期純利益	1,101,470	186,034
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,101,470	186,034
非支配株主に帰属する四半期純利益		
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	49,678	55,445
その他の包括利益合計	49,678	55,445
四半期包括利益	1,151,148	241,480
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,151,148	241,480
非支配株主に係る四半期包括利益		

【注記事項】

(追加情報)

(会計上の見積りに係る判断に関する事項)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)(会計上の見積りに係る判断に関する事項)に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

債権流動化

当社は、売上債権流動化を行っております。売上債権流動化に係る金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
売掛金譲渡金額	951,006千円	732,324千円

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
受取手形	千円	34,395千円
電子記録債権	千円	6,337千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
減価償却費	240,188千円	382,729千円
のれんの償却額	4,498千円	13,496千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、2021年12月3日付発行の第2回新株予約権(第三者割当による行使価額修正条項付新株予約権)の権利行使に伴う新株式発行により、当第3四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ452,996千円増加いたしました。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が2,818,894千円、資本剰余金が2,365,107千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月13日 取締役会決議	普通株式	213,939	15.00	2022年3月31日	2022年6月29日	利益剰余金

(注) 2022年5月13日取締役会決議による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式に対する配当金349千円が含まれております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			四半期連結 損益及び包括利 益計算書計上額
	製品事業	受託事業	合計	
売上高				
日本	2,698,589	1,727,466	4,426,055	4,426,055
アジア	2,157,669	15,363	2,173,032	2,173,032
北米	718,881	418,005	1,136,886	1,136,886
欧州	118,674		118,674	118,674
その他の地域	7,373		7,373	7,373
顧客との契約から生じる収益	5,701,188	2,160,834	7,862,023	7,862,023
外部顧客への売上高 セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,701,188	2,160,834	7,862,023	7,862,023
計	5,701,188	2,160,834	7,862,023	7,862,023
セグメント利益	790,865	564,257	1,355,123	1,355,123

(注) セグメント利益の合計額は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			四半期連結 損益及び包括利 益計算書計上額
	製品事業	受託事業	合計	
売上高				
日本	2,579,127	1,645,687	4,224,815	4,224,815
アジア	2,613,376	10,488	2,623,865	2,623,865
北米	711,371	11,725	723,097	723,097
欧州	170,289	4,185	174,475	174,475
その他の地域	6,953		6,953	6,953
顧客との契約から生じる収益	6,081,118	1,672,088	7,753,207	7,753,207
外部顧客への売上高 セグメント間の内部売上高 又は振替高	6,081,118	1,672,088	7,753,207	7,753,207
計	6,081,118	1,672,088	7,753,207	7,753,207
セグメント利益又は損失()	601,091	351,171	249,920	249,920

(注) セグメント利益又は損失()の合計額は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と一致しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	91円99銭	13円6銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	1,101,470	186,034
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	1,101,470	186,034
普通株式の期中平均株式数(株)	11,974,394	14,239,302
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	91円89銭	
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	12,864	
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 1. 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

1株当たり四半期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は前第3四半期連結累計期間23,300株、当第3四半期連結累計期間23,300株であります。

2. 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年2月13日

Mipox株式会社
取締役会 御中

興亜監査法人
東京都千代田区

指定社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 恭 恭

指定社員
業務執行社員 公認会計士 近田 直 裕

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているMipox株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、Mipox株式会社及び連結子会社の2022年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。